

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな 経済フラッシュ

(米国FOMC)

2019/12/12

りそなホールディングス 市場企画部



〇概況

- ◆ 政策金利の誘導水準は4会合ぶりに据え置き（全員一致）
- ◆ メンバーの大勢は2020年を通じて政策金利の変更を見込まず
- ◆ 改めて利上げには距離があることを確認する内容であり、米金利は上昇しづらい

✓ FRBは12/10-11に行われたFOMC（連邦公開市場委員会）にて、**政策金利を据え置きとした（全員一致）**。据え置きは4会合ぶりのこと。これまで7月、9月、10月と3会合連続で0.25%引き下げていた。

✓ 四半期毎に公表される、FOMC参加メンバーによる2020年以降の金融政策見通しの中央値は、2020年据え置き、2021年に0.25%利上げ、更に2022年に0.25%利上げとなった。**2021年以降の利上げ見通しについてはばらつきがみられるが、2020年については17名中13名と大勢が据え置きを見込んでいる。**

✓ 景気や物価見通しはほぼ変わらず。失業率は全般に下方修正。パウエルFRB議長は記者会見でインフレ率と失業率の相関が落ちていることに言及。**現状の緩和的な金融政策を継続することで物価を押し上げる必要があるとした。**

✓ 9月に米国の短期金融市場が混乱し、短期金利が急騰する場面も見られた。12月も短期金融市場の混乱が警戒されるが、現時点ではこれまでの政策を継続することで様子を見ろとした。

✓ ほぼ市場予想通りの結果であるが、**改めて利上げには距離があることが示唆された。金融政策面から米金利は上昇しづらい。リスク資産にはサポート材料である一方、ドルには重石となろう。**

【FOMC参加者の見通し（12月時点）】

	FRB見通し（中央値）				
	2019	2020	2021	2022	長期
実質GDP	2.2	2.0	1.9	1.8	1.9
9月時点	2.2	2.0	1.9	1.8	1.9
失業率	3.6↓	3.5↓	3.6↓	3.7↓	4.1↓
9月時点	3.7	3.7	3.8	3.9	4.2
PCEインフレ率	1.5	1.9	2.0	2.0	2.0
9月時点	1.5	1.9	2.0	2.0	2.0

【FFレート見通し内訳—FOMC参加者の人数】

利上げ回数	今後の利上げ回数	2020		2021		2022		Longer run	
		9月	12月	9月	12月	9月	12月	9月	12月
3.375	7回							1	1
3.250									
3.125	6回							1	1
3.000									
2.875	5回					2	2	3	2
2.750									
2.625	4回			1		2	2	8	8
2.500								1	1
2.375	3回	1		5	3	5	4	1	2
2.250								1	2
2.125	2回	6		4	5	4	3		
2.000								1	1
1.875	1回	2	4	3	4	3	5		
1.750									
1.625	現在	8	13	4	5	1	1		
1.500									
1.375	▲1回								
1.250									
平均値		1.875	1.684	2.066	1.963	2.272	2.228	2.570	2.539
中央値		1.875	1.625	2.125	1.875	2.375	2.125	2.500	2.500

今回FOMCで提示された中央値の利上げベース

中央値

【出所】FRB

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。